



2024年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年2月9日

上場会社名 宮地エンジニアリンググループ株式会社
コード番号 3431 URL <https://www.miyaji-eng.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青田 重利

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 企画・管理部長 (氏名) 遠藤 彰信

TEL 03-5649-0111

四半期報告書提出予定日 2024年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	52,309	19.4	6,801	58.2	6,789	50.6	3,701	40.9
2023年3月期第3四半期	43,806	2.4	4,297	8.0	4,509	6.7	2,627	0.8

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 5,423百万円 (60.6%) 2023年3月期第3四半期 3,378百万円 (0.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	271.97	
2023年3月期第3四半期	193.06	

(注) 当社は、2023年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	70,739		44,953		54.0	
2023年3月期	63,051		41,568		56.3	

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 38,174百万円 2023年3月期 35,508百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		60.00		80.00	140.00
2024年3月期		170.00			
2024年3月期(予想)				95.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

(注) 2024年3月期第2四半期末配当金の内訳 普通配当 150円00銭 記念配当 20円00銭

当社は、2023年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。

2024年3月期の第2四半期末配当は当該株式分割前の金額を、期末配当(予想)は当該株式分割後の金額を、それぞれ記載しております。

また、年間の合計につきましては、株式分割により単純比較ができないため表示しておりません。

なお、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり年間配当金は以下のとおりとなります。

2023年3月期 70円00銭

2024年3月期 180円00銭(うち記念配当10円00銭)

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	71,000	17.8	7,100	38.5	7,000	30.3	3,800	23.5	279.21

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

当社は、2023年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。
2024年3月期の通期の連結業績予想における1株当たり当期純利益の額は、当該株式分割が当連結会計年度の期首に行われたと仮定して算出して
おります。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に
特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 以外の会計方針の変更 : 無
 会計上の見積りの変更 : 無
 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	13,838,908 株	2023年3月期	13,838,908 株
期末自己株式数	2024年3月期3Q	229,266 株	2023年3月期	228,762 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	13,609,720 株	2023年3月期3Q	13,610,533 株

(注) 当社は、2023年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われた
と仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」、「期中平均株式数」を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、
その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提と
なる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの
将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
(4) 中期経営計画（2022～2026年度）期間中の株主還元について	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	10
生産、受注及び販売の状況（連結）	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されているものの、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっております。

そのような状況下において、当社グループの主力である道路橋・鉄道橋などの橋梁事業の当年度内予想発注規模の見通しにつきましては、新設関連は第2四半期末時予想の2,700億円から2,750億円（いずれも当社推定値）と変わりはないものの、保全関連では第2四半期末時予想の2,900億円から2,500億円（いずれも当社推定値）となっており、全体としては減少が見込まれるものの、堅調に発注が続いている状況です。

このような環境下、当社グループは技術的難易度の高い特殊架設工法の新設工事受注などにより、受注高は549億61百万円（前年同期比46.3%増）となりました。

また、手持ち工事が概ね順調に進捗したことにより、売上高につきましては523億9百万円（前年同期比19.4%増）となり、損益につきましても営業利益は68億1百万円（同58.2%増）、経常利益は67億89百万円（同50.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は37億1百万円（同40.9%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(宮地エンジニアリング)

受注高につきましては、348億31百万円（同46.0%増）となりました。

売上高につきましては、303億37百万円（同19.1%増）となりました。

損益につきましては、営業利益は36億14百万円（同19.1%増）となりました。

(エム・エムブリッジ)

受注高につきましては、201億26百万円（同46.8%増）となりました。

売上高につきましては、219億19百万円（同19.5%増）となりました。

損益につきましては、営業利益は31億72百万円（同150.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産合計は、前連結会計年度末と比較して76億88百万円増加し、707億39百万円となりました。主な要因は、現金預金が28億74百万円、流動資産のその他に含まれる未収入金が14億70百万円それぞれ減少したものの、受取手形・完成工事未収入金等が101億55百万円、投資有価証券が8億41百万円、未成工事支出金が5億82百万円、有形固定資産のその他に含まれる建設仮勘定が6億10百万円それぞれ増加したためであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比較して43億2百万円増加し、257億86百万円となりました。主な要因は、支払手形・工事未払金等が15億92百万円、短期借入金が15億円、工事損失引当金が10億54百万円それぞれ増加したためであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比較して33億85百万円増加し、449億53百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が20億円、その他有価証券評価差額金が6億70百万円、非支配株主持分が7億19百万円それぞれ増加したためであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

わが国経済の見通しにつきましては、緩やかな回復が続くことが期待されているものの、海外景気の下振れによる景気下押しリスクのみならず、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に加え、令和6年能登半島地震による影響についても、十分に留意する必要があります。そのような状況の中、来年度も一般会計予算が2年連続の110兆円越えとなる112兆5,717億円となり、公共投資につきましても、国土交通省の予算ベースで今年度並みの5兆9,537億円が確保され、引き続き「国民の安全・安心の確保」、「持続的な経済成長の実現」および「個性をいかした地域づくりと分散型国づくり」の実現に資する波及効果の大きなプロジェクトが、戦略的かつ計画的に展開されることが期待されています。

当社グループの主力である道路橋・鉄道橋においても、当年度内予想発注規模が第2四半期末時予想を若干下回るものの堅調な発注が続いており、今後も改正道路特別措置法に基づく2115年までの高速道路有料化を財源とした道路整備の促進などにより、同規模の発注が継続していくことが見込まれております。更に、質的にも量的にも高い技術力と施工能力が求められている高速道路大規模更新・大規模修繕工事（事業規模7兆円）の継続的な発注に加え、大阪湾岸線西伸部、名神湾岸線連絡橋などの高難度ビッグプロジェクトも推進しており、中期的に当社グループが飛躍する事業環境であると言えます。また、鉄道関連や大空間・特殊建築物においても、引き続き施工難易度の高い首都圏ターミナル駅の再開発事業や連続立体交差事業、都市部の大中規模再開発事業などが数多く計画されており、当社グループの持つ安全・安心な技術力が活躍できる余地がまだまだあると考えます。

このような事業環境下において、当社グループは中期経営計画（2022～2026年）に基づき、グループとしての経営管理体制を一層強化し、安定した黒字体質を確固たるものとするように努めます。また、グループの中核である

宮地エンジニアリング株式会社とエム・エムブリッジ株式会社は、国内の鋼橋市場の変化・動向を踏まえて新設関連工事、大規模更新・保全関連工事、民間工事（鉄道関連、大空間・特殊建築物、沿岸構造物の工事を含む）に経営資源の選択と集中を行うアセットライト経営を進めつつ、協力会社と「共に歩み」、「共に成長する」を基本として実践し、グループ一体となって更なる事業発展を図ってまいります。併せて、サステナビリティ推進委員会と五つの分科会において様々な社会課題に対する検討を積極的に行い、気候変動対策への取り組み、技術開発やDX（デジタルトランスフォーメーション）に基づく生産性向上、人材の確保・育成、女性活躍の推進、働き方改革などについても進めてまいります。

なお、通期の連結業績予想ならびに配当予想につきましては、手持ち工事が概ね予定とおりに推移していることから、売上高、営業利益および経常利益につきましては、2023年11月9日に公表した見直し数値より変更はありませんが、非支配株主に帰属する当期純利益が減少する見込みとなったため、本日開示の「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおり、親会社株主に帰属する当期純利益は予想を上回る見込みとなりました。

(4) 中期経営計画（2022～2026年度）期間中の株主還元について

当社グループは、中長期視点に立った、持続性の高い企業体質の確立と企業価値の向上ならびに株主の皆様への還元を経営の重要な施策と考えると同時に、株主の皆様、ステークホルダーの皆様との共通のコンセプトである持続的成長のための投資など、バランスの良い資本政策を実施することを基本方針としております。

当社はこの方針に基づき、2023年8月9日開示の「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」により公表しているとおり、総還元性向を60%に見直しました。そして、本日開示の「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおり、2024年3月期の年間配当として1株当たり180円（うち記念配当10円）を予定しております。また、当社株式の流動性向上と投資家層の拡大を図るため、2023年9月30日を基準日として当社普通株式を1株につき2株の割合をもって分割するとともに、同日付の最終の株主名簿に記録された単元株を所有されている株主の皆様へ、当社設立20周年（1908年の祖業となる旧宮地鐵工所創業から115周年）の記念クオカードを進呈しました。

当社は、引き続き中期経営計画（2022～2026年度）期間中において下記の施策を実行すると共に、総還元性向60%を目安に株主還元の維持・拡大を図ってまいります。

- ① 新設橋梁ビッグプロジェクト、高速道路大規模更新工事、民間の高難度工事などへ経営資源をバランス良く投入する計画や、工場生産および現場施工能力の効率化・適正化のための投資計画などを着実に推進する。
- ② 積極的なIR活動を推進する。
- ③ 政策保有株式縮減による放出など特殊な事情がある場合には、自己株式取得を検討する。
- ④ 政策保有株式の縮減を推進し、中期経営計画の期間中の早期に連結純資産に対する帳簿価額の割合を10%以下とする。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	13,615	10,740
受取手形・完成工事未収入金等	26,520	36,675
未成工事支出金	369	951
その他	2,681	1,309
流動資産合計	43,185	49,677
固定資産		
有形固定資産		
土地	7,660	7,563
その他(純額)	5,307	5,845
有形固定資産合計	12,968	13,408
無形固定資産	372	389
投資その他の資産		
投資有価証券	5,156	5,998
その他	1,397	1,291
貸倒引当金	△29	△25
投資その他の資産合計	6,524	7,264
固定資産合計	19,866	21,062
資産合計	63,051	70,739
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	7,508	9,100
短期借入金	—	1,500
未払法人税等	943	1,402
未成工事受入金	4,225	3,718
完成工事補償引当金	543	539
工事損失引当金	2,528	3,582
賞与引当金	792	397
その他	854	1,314
流動負債合計	17,395	21,555
固定負債		
再評価に係る繰延税金負債	1,639	1,639
引当金	117	105
退職給付に係る負債	2,247	2,194
その他	82	291
固定負債合計	4,087	4,230
負債合計	21,483	25,786

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,000	3,000
資本剰余金	3,746	3,746
利益剰余金	23,298	25,299
自己株式	△232	△233
株主資本合計	29,812	31,811
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,404	3,074
土地再評価差額金	3,240	3,240
退職給付に係る調整累計額	51	47
その他の包括利益累計額合計	5,695	6,363
非支配株主持分	6,059	6,778
純資産合計	41,568	44,953
負債純資産合計	63,051	70,739

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
完成工事高	43,806	52,309
完成工事原価	36,640	42,052
完成工事総利益	7,165	10,257
販売費及び一般管理費	2,867	3,455
営業利益	4,297	6,801
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	178	175
受取賃貸料	16	17
スクラップ売却益	18	28
その他	23	26
営業外収益合計	238	248
営業外費用		
支払利息	1	1
前受金保証料	20	16
シンジケートローン手数料	—	237
その他	4	6
営業外費用合計	26	260
経常利益	4,509	6,789
特別利益		
投資有価証券売却益	—	189
ゴルフ会員権売却益	2	—
その他	—	4
特別利益合計	2	193
特別損失		
固定資産除却損	15	3
特別損失合計	15	3
税金等調整前四半期純利益	4,496	6,978
法人税等	1,461	2,225
四半期純利益	3,035	4,753
非支配株主に帰属する四半期純利益	407	1,052
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,627	3,701

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	3,035	4,753
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	330	670
退職給付に係る調整額	12	△0
その他の包括利益合計	343	669
四半期包括利益	3,378	5,423
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,965	4,368
非支配株主に係る四半期包括利益	412	1,054

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第3四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年12月31日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宮地エンジ ニアリング	エム・エム ブリッジ				
売上高						
外部顧客への売上高	25,476	18,336	2	43,814	△8	43,806
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,428	—	1,616	3,045	△3,045	—
計	26,905	18,336	1,618	46,859	△3,053	43,806
セグメント利益	3,036	1,265	1,462	5,764	△1,466	4,297

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに帰属しない当社（純粋持株会社）であります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 売上高の調整額は、セグメント間取引に係る進捗率調整及びセグメント間取引消去であります。

(2) セグメント利益の調整額は、セグメント間取引に係る進捗率調整による影響額6百万円、セグメント間取引消去△1,316百万円及び全社費用△156百万円であります。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第3四半期連結累計期間（自2023年4月1日 至2023年12月31日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宮地エンジ ニアリング	エム・エム ブリッジ				
売上高						
外部顧客への売上高	30,337	21,919	4	52,261	47	52,309
セグメント間の内部 売上高又は振替高	587	—	4,028	4,616	△4,616	—
計	30,925	21,919	4,032	56,877	△4,568	52,309
セグメント利益	3,614	3,172	3,760	10,547	△3,746	6,801

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに帰属しない当社（純粋持株会社）であります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 売上高の調整額は、セグメント間取引に係る進捗率調整及びセグメント間取引消去であります。

(2) セグメント利益の調整額は、セグメント間取引に係る進捗率調整による影響額20百万円、セグメント間取引消去△3,495百万円及び全社費用△271百万円であります。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況（連結）

① 生産の状況

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)		前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	25,409	57.8	30,340	57.4	34,471	57.0
エム・エムブリッジ	18,538	42.2	22,507	42.5	26,146	43.2
その他	2	0.0	4	0.0	3	0.0
調整額	△8	△0.0	47	0.1	△107	△0.2
合計	43,942	100.0	52,899	100.0	60,514	100.0

② 受注の状況

(受注高)

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)		前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	23,851	63.5	34,831	63.4	38,721	58.1
エム・エムブリッジ	13,711	36.5	20,126	36.6	27,925	41.9
その他	2	0.0	4	0.0	3	0.0
合計	37,565	100.0	54,961	100.0	66,650	100.0

(受注残高)

セグメントの名称	前第3四半期連結会計期間末 (2022年12月31日)		当第3四半期連結会計期間末 (2023年12月31日)		前連結会計年度末 (2023年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	51,371	58.4	62,052	59.9	57,262	56.9
エム・エムブリッジ	36,747	41.7	41,576	40.1	43,369	43.1
その他	—	—	—	—	—	—
調整額	△73	△0.1	△21	△0.0	25	0.0
合計	88,045	100.0	103,606	100.0	100,658	100.0

③ 販売の状況

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)		前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	25,476	58.1	30,337	58.0	34,455	57.2
エム・エムブリッジ	18,336	41.9	21,919	41.9	25,927	43.0
その他	2	0.0	4	0.0	3	0.0
調整額	△8	△0.0	47	0.1	△107	△0.2
合計	43,806	100.0	52,309	100.0	60,279	100.0